

教科	授業改善のための具体的な取組	学校として位置付けている授業改善のための具体的な取組の目標値や評価規準等	今年度の評価や修正点
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・物語文では、登場人物の行動を中心に想像を広げて読み取ることができるようにする。 ・説明文では、文や写真、挿絵を手がかりにして読み取ったことを自分なりに表現できるようにする。 ・ひらがなやかたかなを正しく書いたり読んだりできるようにする。 ・話をよく聞き、自分が思っていることが伝わるように、順序を整理して正しく話したり書いたりできるようにする。 ・音読や読書の習慣を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で判断する必要がある発問を取り入れ、9割の児童が自分なりに判断できることを目指して読み取る力を身に付けさせる。 ・ひらがなやかたかなの学習は繰り返し練習させ、全員が正しく文字が書けるようにする。 ・漢字の学習は繰り返し練習させ、ミニテストを行い80点以上を9割の児童がとれるようにする。 ・壁面掲示を工夫し、言葉に触れさせ親しめるようにし、語彙を増やす。 ・「本はともだち」を活用し、楽しく読書をするようにする。(年間60冊以上) 	<ul style="list-style-type: none"> ・判断させる場面を取り入れ、根拠を見付けることは9割の児童ができていた。(ワークテストや発言)「なぜなら～」「～だから」を使って理由を述べるができるよう、今後も丁寧に指導していく必要がある。 ・漢字は、書き取りの学習やミニテストを繰り返し丁寧に見ていくことで、定着してきている。(テスト80点以上を9割の児童がとれた。) ・音読集や言葉遊びの学習を取り入れることで、言葉に興味をもつようになり語彙が増えてきた。 ・本を読むことが好きな児童が多い。年間60冊以上読んだ児童は7割程度だが、活字の多い物語を読む児童が増えた。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・教材、教具を活用するとともに、個人差に応じた個別指導を工夫し、基礎・基本の定着を図る。 ・算数的活動を通して、考える楽しさを味わうことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体物や半具体物の)操作活動を十分にを行い、数や量感を身に付け、理解できるようにする。(テスト80点以上9割) ・少人数算数の教員や学年と連携して、毎時間の学習の様子を確認し合い、個に応じた指導について計画・実践する。 ・思考力、判断力、表現力を育てるため、図・式・言葉を用いて考えたり、説明したりする活動を取り入れ、7割の児童が自分の考えをもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の導入や定着を深めるために算数ブロックや図などを用いた操作活動を行い、理解を深めることができた。(テスト80点以上を9割の児童がとれた。) ・毎時間の学習の様子を確認したりノートやプリントを見合ったりしながら、個々の状況を把握して丁寧に指導を行うことができた。 ・毎時間ノートやプリントに、図・式・言葉を用いて考えたり、説明したりする活動を取り入れた。自分の考えをまとめ発表する児童が増えた。(7割の児童ができるようになった。)
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を聴いて歌ったり、模唱したり暗唱したりしながら、正しい音程やリズム、階名などの基礎的な技能を身に付けさせる。 ・体験的なリズム遊び、体を動かすリズム活動を通し、即時判断や即興的なリズムを打つ能力をつけさせる。 ・タンギング等の基本的な鍵盤ハーモニカの演奏法を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴いたり、友達の声聴いたりしながら正しい音程感覚を養い、声を合わせて歌うことができるようにする。 ・友達と協力し楽しみながらリズム遊びに参加し、リズムを取ることができるようにする。ピアノの即興演奏に合わせて即時判断し拍子を変えることができるようにする。 ・鍵盤ハーモニカでは、一斉指導や個別指導を通して、息の強さやタンギング、指遣いを、9割以上の児童が確実にできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・範唱を必ず取り入れ、歌の指導を行い、正しい音程が取れるようにした。友だちの声を聞いて、歌うことの気持ちよさに気付くようになった。 ・タンギングや指使いに気を付け、鍵盤ハーモニカの演奏ができるようになった。(9割の児童が正しく演奏できる。)
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・演示を行うとともに、板書や掲示を工夫することで、手順やめあてが視覚的に分かるようにする。 ・自分や友達の作品を楽しく見ることができるよう、授業の合間や、終末に鑑賞を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はさみやのりの扱いに慣れ、目的に応じて適切に使用する。 ・作品の面白さや、造形的な活動の楽しさを、話したり、簡単な文で書いたりできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・描画材料の特性について、丁寧に指導することができた。 ・道具の適切な活用については、引き続き指導が必要である。 ・造形的な活動の楽しさを話したり、簡単な文で書いたりすることができた。

<p>体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の順番を守ったり、固定施設、器械、器具などの使い方のきまりや運動の仕方のきまりを守ったりして、すすんで運動しようとする態度を育てる。 ・自分の体を意図して動かすことや、運動の基本的な動きを身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の動きや固定施設、器械、器具などの使い方やきまりを視覚的に提示することにより、運動の内容や友達と協力して進めていく方法を理解できるようにする。 ・様々な運動につながる多様な動きを、遊び感覚で身に付けられるような活動を意図的に取り入れ、8割の児童がすすんで運動に取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードを利用することにより、めあてをもって取り組むことができた。 ・友だちとなかよく運動することができた。 ・ゲームは、児童の実態に合わせて進めていったので、協力しながら、楽しんで取り組むことができた。
<p>生活科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の様子やつぶやき、表現したものを記録・分析し、次の活動へとつなげていく。 ・児童が学習に意欲的に参加し、活動を通しての気付きや工夫を友達と共有できるようにする。 ・児童の興味・関心をもとに、意欲や主体性を引き出す環境、教材、教具、活動を工夫する。 ・一人一人の思いや願いを活動に反映できるよう学習計画を立て、活動の場や教材などの事前準備をしっかりと行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体指導と個別指導を適宜行い、個人の活動（観察カード、作品など）やグループ活動（話し合い、交流活動など）で気づいたことを、9割以上の児童が絵や言葉で表現できるようにする。 ・保護者や地域の人材を生かし、体験的な活動を取り入れることで、児童がすすんで関わるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動後、感じたことや気付いたことを、絵や文で表すことができた。また、互いの作品を確認したり書いた物を読み合ったり、交流を深めることができた。（絵や言葉で表現することは、9割以上できる。） ・保護者や地域の方々の協力を得て、「地域めぐり」や「昔あそび」など児童がすすんで活動に関わることもできた。

教科	授業改善のための具体的な取組	学校として位置付けている授業改善のための具体的な取組の目標値や評価規準等	今年度の評価や修正点
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・物語文では、登場人物の行動や会話から、気持ちを捉えたり想像を広げたりして読むことができるようにする。 ・説明文では、順序や構成を考え内容を読み取ることができるようにする。 ・漢字や片仮名の読み書きを定着させ、文や文章の中で適切に使えるようにする。 ・すすんで読書をしたり、気持ちを込めて音読したりする態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題や発問を工夫し、自分で判断させる場面を多く取り入れることで、読み取る力を付ける。 ・話型や話の聴き方をくり返し指導し、自分の意見を順序よく話せるようにする。 ・漢字や片仮名は、繰り返し練習し、ミニテストで80点以上を9割の児童がとれるようにして定着を図る。 ・言葉遊びや読み聞かせで言葉に触れさせ親しめるようにする。学習の中で意識して言葉を取り上げて語彙を増やせるようにする。 ・「本はともだち」や「読む読むキッズ」を活用し、年間60冊以上の本を読ませるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が教材の場面を読み取り、自分なりの判断を、根拠をもとに説明することができた。 ・他者の話を聞く際に、姿勢を整えている児童の姿が見られた。また、つなぎ言葉を使いながら、自分の意見を話すことのできる児童が8割ほど見られた。 ・漢字や片仮名のミニテストでは80点以上を9割の児童がとれるようになった。 ・言葉を集めたり、文章を書く際に積極的に漢字を書いたりする児童の姿が見られた。 ・読書を意欲的に行い、100冊以上読む児童が8割見られた。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・教材・教具を活用すると共に、個人差に応じた指導を工夫し、基礎・基本の定着を図る。 ・算数的活動を通して、思考力・判断力・表現力を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体物や半具体物を用いた算数的活動を取り入れ、数や図形・量の感覚を豊かにする。 ・少人数指導を活用し、繰り返し問題に取り組ませる。掛け算九九は、全員唱えられるようにする。 ・図・式、習った用語などを使って考えたり、考えを説明したりする活動を意識して取り入れ、自分の考えをノートに表現できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体物や半具体物を用いた算数的活動を行うことによって、9割の児童が80点以上をとれるようになり、学習内容の定着を図ることができた。 ・少人数指導の良さを十分活用して、個別対応や考える時間の確保することができた。 ・加法や減法の計算練習に繰り返し取り組ませることで、計算力が身に付いた。かけ算九九は、ほとんどの児童が暗唱できるようになったが、まだ定着しきれていない児童もいるため、復習していく必要がある。 ・図や式、言葉を用いて考えをノートに書いたり、説明したりすることができるようになってきたが(7割程度)個人差が大きい。今後も考えを書いたり説明したりする機会を作ることが必要である。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を聴いて歌ったり、暗唱したりしながら、姿勢や音程、リズム、階名などの基礎的な技能を身に付けさせる。 ・音楽の体験的な学習活動を通してリズムや拍を感覚的に捉え基礎的な知識や技能を高めるとともにそれらを使って想像する力、表現する力を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・範唱や友達の歌声を聴いて声を合わせて歌う工夫をしたり、階名唱や手拍子でのリズム遊びをしたりして、基礎的な技能を高めさせる。 ・リズム遊びや体を使って音楽を楽しむ中で、友達と自由な発想でリズム創作をしたり、2拍子・3拍子を体験したりして、表現力を高めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・範唱や伴奏に合わせて「楽しくきれいに歌う」ことができるようになってきている。 ・鍵盤ハーモニカは、タンギングや指使いに気を付けながら繰り返し練習し、練習した曲については8割が弾けるようになった。 ・2拍子基礎リズムを習得し、9割程度の児童が提示したリズムを即時に打つことができるようになった。
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・用具や材料に触れながら、想像することや変化を楽しむことができるよう、用具や材料を試す時間を設けたり物語を想像させたりして、導入の工夫を行う。 ・自分や友達の作品の面白さや楽しさを感じ取ることができるよう、授業の合い間や終末に鑑賞を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はさみやのり、クレパス等の扱いに慣れ、目的に応じて適切に使用させる。 ・作品の面白さや、造形的な活動の楽しさを、話しさせたり、簡単な文で書かせたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はさみ、のり、クレパスの使い方を具体的に指導し、基本的な使い方を身に付けることができた。絵の具、カッターについても使い方を指導したが、まだ不十分である。今後も作品作りを通して、扱い方に慣れさせていく必要がある。 ・様々な用具や材料に触れさせることで、物語を想像したり素材の特徴を生かして造形的な活動を楽しませることができた。 ・造形活動の楽しさを話したり、友達の作品を鑑賞したりすることで、作品のよさを見付け、簡単な文章で表すことができた。

<p>体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・健康や安全に気を付け、順番や決まりを守って、友達と仲良くすすんで運動しようとする。 ・児童がめあてをもって授業に取り組めるようにする。 ・体力テストを活用し、基礎的な運動をする時間を単発ではなく、年間を通して帯で設け、運動能力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の内容や学習の進め方など、学習の流れが分かるようにする。 ・ゲームや音楽を取り入れ、児童が楽しみながら様々な運動に取り組めるようにする。 ・体づくり運動を年間を通して帯で行い、課題である投力や瞬発力、持久力、握力の向上を図る。 ・持久走・縄跳び・鉄棒などカードを利用して、継続的に体力向上に取り組むことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育科の学習において準備体操や学習活動、整理体操の流れを決めることで、児童が見通してもって学習を進めている姿が見られた。 ・体づくり運動では、音楽やゲームの要素を取り入れながら、かしわ学級とともに、運動を意欲的に取り組む姿が見られた。 ・本校の児童の課題である投力や、握力を向上させるために、年間を通して体づくり運動を推進することができた。 ・学習カードを基にしながら、自分の技能を高めようとする姿が9割以上見られた。
<p>生活科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の様子やつぶやき、表現したものを記録・分析し、それを次の活動につなげていくような授業展開を目指す。 ・児童が学習に意欲的に参加し、活動を通しての気づきや工夫を友達と共有させるようにする。 ・児童の興味・関心をもとに、意欲や主体性を引き出す環境、教材、教具、活動を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の活動（観察カード、作品など）やグループ活動（話し合い、交流活動など）で気づいたことを絵や言葉で、9割以上の児童が表現できるようにする。 ・保護者や地域の人材を生かし、体験的な活動を取り入れることで、児童がすすんで関わるようにする。 ・児童の興味・関心を高めるために、地域の方々や下級生との交流活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の活動を基にしてグループ活動で交流しながら、自分の意見を9割以上の児童が表現することができた。 ・校外学習や町探検の際に保護者の方に協力して頂きながら、体験的な学習を展開することができた。 ・昔あそびを地域の方々に教えてもらったり、下級生を招いて「遊びの広場」を運営したりすることを通して、9割以上の児童が学習活動に興味・関心をもって取り組むことができた。

教科	授業改善のための具体的な取組	学校として位置付けている授業改善のための具体的な取組の目標値や評価規準等	今年度の評価や修正点
国語	<ul style="list-style-type: none"> 物語文では、登場人物の人物像を捉えたり気持ちの変化を叙述を元に想像を広げて読んだりすることができるようにする。 説明文では、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、内容を正しく読み取ることができるようにする。 語彙の量を増やし、質を高めるために、国語辞典を活用させたり、繰り返し音読練習に取り組みせたりする。 漢字の読み書きを定着させ、丁寧に書いて使えるようにする。 読書をすることを習慣化させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題や発問を工夫し、自分の考えを判断させる場面を多く取り入れ、読む力を付ける。 自分の考えは、「考え・根拠・理由」の3点セットで表現させる。 音読練習や読書、全ての学習で意識して言葉を取り上げることを通して語彙をふやす。意味調べの学習活動を随時とる。 漢字は、繰り返し練習し、小テストで80点以上を9割の児童が取れるようにする。 国語の時間に限らず、読書に取り組むよう声をかける。読書貯金通帳を活用し、8割の児童が年間5000ページ以上の読書ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題や発問を工夫したことで、児童が自分の考えをもち、本文のどこからそう思ったのかの根拠とともに考えを書いたり発表したりできるようになった。 教師の問いかけを工夫し、どこからそう思ったのか(理由)も言えるようにし、対話を深めていきたい。 漢字の習得は、個人で差がある。日常的に既習漢字を使って丁寧に字を書いていけるよう継続して指導していく必要がある。小テストは全体として平均点85点であり、習熟させることができた。 音読・読書・国語辞典の活用で言葉への関心を高めることができた。今後も意図的に言葉と向き合わせ、語彙の質と量を高めていく必要がある。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決に向けて主体的に学習が進められるよう、見学や地域巡りなどの体験的な活動や作業的な活動を積極的に取り入れる。 写真や地図、資料を活用し、資料の読み取り方、まとめ方について指導する。 地図記号や方位、等高線、名称など基本的な地図の見方や知識を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 町探検2回、施設見学3回、店舗見学1回以上、年間で計画し実施する。 調べたことをポスター、リーフレット、新聞など多様な形式でまとめる。学年8割の児童が自分でまとめられるようにする。 毎回の授業で必ず資料を取り扱い、活用の仕方を丁寧に指導し、全員が的確に資料を読み取って活用できるようにする。 地図記号や方位、名称を覚えて活用できるよう毎学期繰り返し指導していく。地図記号のテストで8割以上の達成を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域巡り、スーパーマーケット・農家・工場・地域の歴史的文化的施設見学などを計画的に行った。児童の興味関心を高めることができた。 ほとんどの児童が、新聞・リーフレット・ポスターに調べたことをまとめることができた。 資料の読み方や扱い方にも慣れてきた。資料や情報の活用の仕方を今後も指導していく必要がある。 地図を読み取ったり、事実と原因・背景を結び付けたりする活動を取り入れた指導を継続的に指導することができた。地図記号のテストでは84%の正答率を得た。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 本時のめあてを毎時間、黒板に提示して児童が常に意識できるようにする。 習熟度に応じた授業を展開し、知識・技能の習得を確かなものにする。 問題解決的な学習過程(問題把握→自力解決→全体交流→まとめ→習熟)で、自分の思考を図や絵、言葉を用いてノートにまとめたり、考えや解き方を説明したりする活動を取り入れる。 教材・教具を活用し、計算ドリルでの繰り返し練習を取り入れ、基礎・基本の内容の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業や宿題で基礎基本を繰り返し習熟させ、ワークテストでは「知識」・「技能」で95%以上、「数学的な考え方」では80%以上を目指す。 しっかりコース、ぐんぐんコースでは、検討時間を確保し、自分や友達の考え方を分かりやすく説明したり、書いたりできるようにする。じっくりコースでは、反復練習による習熟を図り、知識・技能が正しく身に付くようにする。 自分の考えを友達と交流する機会(ペア、グループ、全体)を意図的に設定する。 具体物や半具体物を用いた算数的活動を多く取り入れ、数や図形・量の感覚を豊かにする。 全員が計算ドリルに最後まで取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 計算ドリルやベーシックドリル等でくり返し基礎基本学習を行ったことで「知識・理解」は8割の児童が90%以上達成するなど既習事項の定着が高まった。 円と球や三角形と角では、具体物を用いた算数的活動を用いることで、図形の間隔をイメージさせることができた。 計算の仕方などノートに書かせることで、考えをまとめることを大切に授業を行うことができた。 自分の考えを分かりやすく説明できる児童が少ないので引き続きグループ活動を取り入れる。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 既習経験を生かし、科学的な事象を十分に体験させて観察、実験の技能を伸ばす。 「問題」「予想」「実験」「結果」「結論」「学習感想」という学習過程の流れを明確にして、各段階でのポイントを明確にした指導をする。 自然事象を比較・関連付けながら、自分なりの考えをもち、自然事象を多面的に捉える力を伸ばす。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の導入では、体験的な活動を取り入れ、そこから学習問題を見付けさせることで、問題解決的な学習を実践する。 予想を立ててから実験・観察を行い、学習過程のどの段階であるのかを明確に板書することを繰り返し行い、児童に見通しをもたせる。 実験や観察の結果を自分で分析することを、80%以上の児童ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習過程を明確にし、児童に予想を立てさせてから実験、観察、考察を行ったことで、見通しをもち、意欲的に取り組めるようになった。 日常場面と結びつけたり、体験的な活動を入れたりしたことで、学習問題を見付けられる児童が増えてきた。 実験や観察の結果を一人で分析することに苦手意識をもっている児童もいるが、90%の児童が結果を自分で分析できるようになった。理科的な読み物に親しませたり、自然現象を取り上げたりする機会を増やしたい。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 音楽を聴いて歌ったり、模唱したり暗唱したりしながら、姿勢や音程、リズム、階名などの基礎的な技能を身に付けさせる。 音楽の体験的な学習活動を通して単純なリズムや拍を感覚的に捉え、基礎的な知識や技能を高めるとともに、それらを使って想像する力や表現する力を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 範唱や友達の歌声を聴いて声を合わせて歌う工夫をすることができるようにする。またリズム遊びを通し、音楽にリズムを合わせることができるようにする。 リズムを中心とする音楽遊びの中で友だちと協力しながら自由な発想でリズム創作をしたり、2拍子、3拍子を体験し即時的な活動をさせる。 リコーダーでは、一斉指導や個別指導を通して、息の強さやタンギング、指遣いを、9割以上の児童が確実にできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 音や範唱を聴き、その通りに演奏できる児童が増えた。大きな声ではっきりと歌うことができる児童も増えた。今後は、無理のない発声できれいに歌うことを考えられるよう指導する必要がある。 2拍子や3拍子のリズムを即時に打つことができるようになった。今後は創作にも力を入れていきたい。 リコーダーでは、基本的な奏法を身に付け楽譜通りに吹く児童が増えた。4年生になってからは、様々な曲に挑戦させていきたい。

図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・用具や材料に触れながら、想像することや変化を楽しむことができるようにする。そのために、用具や材料を試す時間を設けたり、物語を想像させたりなど、導入の工夫を行う。 ・自分や友達の作品の面白さや楽しさを感じ取ることができるようにする。そのために、授業の合間や、終末に鑑賞を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はさみやカッター、のり、クレパスなどの扱いに慣れ、80%以上の児童が目的に応じて適切に使用することができるようにする。 ・80%以上の児童が、作品の面白さや、造形的な活動の楽しさを、話したり、簡単な文で書いたりできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はさみ、カッター、以外にも電動糸のこぎりや小刀、やすり、げんのう、くぎ抜き等の道具の扱いに慣れさせることができた。十分使い方を試す時間も用意することができた。導入に物語を取り入れる取り組みは、今後の課題となった。 ・授業の合間や終末に積極的に鑑賞の取り組みを入れ、作品交流に興味を持たすことができた。作品交流の内容の充実が今後の課題である。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・健康や安全に気を付け、順番や決まりを守って、友達と仲良く進んで運動できるようにする。 ・児童がめあてをもって授業に取り組めるようにする。 ・体力テストを活用し、基礎的な運動をする時間を単発ではなく、年間を通して帯で設け、運動能力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の内容や学習の進め方などが分かり、めあてをもって取り組めるように学習カードを活用して取り組ませる。 ・ゲームを取り入れ、作戦を立てたり、練習方法を工夫させたりし、児童が楽しんで様々な運動をできるようにする。 ・体づくり運動を年間を通して帯で行い、課題である投げる力、瞬発力、握力の向上を図る。 ・持久走・縄跳び・鉄棒などでは、カードを準備し、自分の課題に合わせて進んで取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードを活用したことで、児童がめあてをもち、練習を工夫したり、友達と教え合ったり、意欲的に取り組めた。また、振り返りを次に生かすこともできた。 ・ほとんどの児童が、健康や安全に気を付け、きまりを守って友達と一緒に運動できた。 ・短縄跳びでは、目標を決めたことで進んで取り組む児童が増えた。友達と上達するためにアドバイスをし合ったり、見合ったりする姿が見られた。

教科	授業改善のための具体的な取組	学校として位置付けている授業改善のための具体的な取組の目標値や評価規準等	今年度の評価や修正点
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・物語文や説明文では、文章の叙述や資料、体験などを根拠に判断させ、思考し、表現させる活動を繰り返し行うようにする。 ・語彙の量を増やし、質を高めるために、国語辞典を活用させたり、繰り返し音読練習に取り組みせたりする。 漢字の読み書きを定着させ、丁寧に書いて使えるようにする。 ・読書をすることを習慣化させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題や発問を工夫し、自分の考えを判断して交流する場面を多く取り入れ、読む力を付ける。 ・自分の考えは、「考え・根拠・理由」の3点セットで表現させる。 ・音読練習や読書、全ての学習で意識して言葉を取り上げることを通して語彙をふやす。意味調べの学習活動を随時とる。 ・漢字は、繰り返し練習し、小テストで80点以上を9割の児童が取れるようにして定着を図る。 ・国語の時間に限らず、読書に取り組むよう声をかける。読書貯金通帳を活用し、年間60冊以上読書させるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の見通しを持たせ、判断でしかけたことによって、意欲的に教材を読み、交流活動によって読みを深めることができた。 ・漢字練習や小テストを繰り返し行ったことで、漢字テストの成績が上がった。日常的に既習漢字が使っていけるように文作りや作文で見直し、漢字を正しく使う習慣を身に付けさせていく。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・写真、ビデオ、ホームページ、図書、図、グラフなど児童に合った資料を用意し、資料を読み取り考える活動を繰り返し行う。 ・資料から読み取れたことをもとに、新たな課題や疑問を考えられるように指導する。また、施設見学や出前授業を活用し、そこに従事している人々の工夫や努力を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な地図の見方ができるようになり、8割の児童が都道府県名とその位置を正確に理解できるようにする。 ・写真、グラフなどから読み取れることを自分たちで考えられるようにする。また、各単元で、出前授業か施設見学のどちらかは実施できるように計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童に合った資料を用意し、読み取りを丁寧にやったことで、児童が資料から読み取ったことをもとに考えられるようになってきた。学んだことや調べたことを社会科見学で確かめ、まとめる活動を工夫したことで理解が深まった。 ・「くらしをささえる水」では、「水道キャラバン」の出前授業を実施し、「ごみのしまつと再利用」、「東京都の地図探検」では、「クリーンプラザふじみ」や「中央防波堤埋立処分場」、「そなエリア東京」への社会科見学を実施したことで、仕事に従事している人々の工夫や努力への理解が深まった。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてを毎時間、黒板に提示して児童が常に意識できるようにする。 ・習熟度に応じた学習を展開し、知識・技能の習得を確かなものにする。 ・問題解決的な学習過程（問題把握→自力解決→全体交流→まとめ→習熟）をふみ、自分の思考をテープ図、線分図などの図や絵、言葉を用いてノートにまとめたり、考え方や解き方を説明したりする活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や宿題で基礎基本を繰り返し習熟させ、ワークテストでは「知識」・「技能」で95%以上、「数学的な考え方」では80%以上を目指す。 ・しっかりコース・ぐんぐんコースでは、それぞれの考え方や解き方をペアやグループ、全体に説明する活動を多く取り入れ交流させる。じっくりコースでは、既習事項の確認や反復を丁寧に言い、基本的な知識・技能を確実に身に付けられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度に応じたグループ編成を行ったことで、一人一人の理解を深めることができた。 ・がい数では、苦手な児童が多かったので基本的な知識・技能を高められるようドリルなどで繰り返し学習した。引き続きミニテストなどで習熟度の確認をする。 ・しっかりコース・ぐんぐんコースでは、自分の考えや解き方を説明できる児童を増やすように、自分の考えを言葉や図で表現する活動を引き続き多く設定する。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・既習経験を生かし、科学的な事象を十分に体験させて観察、実験の技能を伸ばす。 ・問題解決型学習を取り入れ、「疑問・課題設定」→「予想を立てる」→「実験して確かめる」→「結果をつかむ」→「結論・考察をまとめる」という学習過程を定着させる。 ・用語や実験器具について、繰り返し確認し、定着させる。 ・観察や実験の経過を自分の言葉でまとめ、自然事象を多面的に捉える力、科学的思考力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の導入では、体験的な活動を取り入れ、そこから学習問題を見付けさせることで、問題解決的な学習を実践する。 ・学習過程を定着させ、ノートにまとめられるようにする。また、用語や実験器具の役割を理解し、大まかな実験方法を自分なりに考えられるようにする。 ・全員が予想を立てて実験に臨めるようにしてから実験・観察を行い、学習過程のどの段階であるのかを明確に板書することを繰り返し行い、児童に見通しをもたせる。 ・実験や観察の結果を自分で分析することを、80%以上の児童ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習過程を定着させ、ノートの記録の仕方を指導したことで、予想を身近なことから考えたり、実験・観察結果や分かったことを自分の言葉でまとめられるようになってきた。また、疑問を次の実験につなげられるようになってきた。 ・基礎的・基本的な学習内容を確認するための問題に取り組ませながら学習内容や用語について定着をはかっていく。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜を読譜したり、歌ったりしながら声を重ねて部分的な二部合唱で歌唱能力を伸ばす。 ・楽しみながら歌を歌い、ハーモニーの楽しさを味わわせることにより合唱への興味を持たせる。 ・音楽の体験的な学習活動を通して単純なリズムや拍を感覚的に捉え、基礎的な知識や技能を高めるとともにそれらを使って想像する力やそれらを表現する力を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・旋律の動きや音の重なりを視覚的に捉えて、声の重なりを感じ取らせたり、友達の声を聴き合わせたりしながら、表現の工夫ができるようにする。また歌詞の内容について、感じたことや気がついたことを発表し合い、表現の仕方が工夫できるようにさせる。 ・リズムを中心とした音楽遊びを通して16分音符を含む複雑なリズムの種類を知り実際にリズムを打ったり、2拍子3拍子4拍子6拍子を体験し身に付けたリズムの知識を活かしてリズム創作をさせる。 ・リコーダーでは、一斉指導や個別指導を通して、息の強さやタンギング、指遣いを、9割以上の児童が確実にできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・合唱では、アルトとソプラノに分かれてつられないように歌うことができるようになった。また、声の大きい友達を模唱することで自信をもって歌うことができる児童もいた。 ・リズム活動を繰り返し行うことでリズムの定着ができ、自分たちで創作活動をして交流することができた。 ・リコーダー演奏では、基礎的な奏法を9割の児童が習得することができている。今後は、複雑な楽曲に挑戦させ楽しみながら演奏させていきたい。

<p>図画工作</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい道具や、材料、技法に触れさせる機会を多く設け、表現の幅を一層広げられるようにする。そのために、用具や材料を試す時間を設ける。効果的な資料の提示を行う。 ・自分たちの作品や、身近にある作品のよさや面白さを味わえるようにする。そのために、授業の合間や、終末の鑑賞を取り入れる。校外での作品鑑賞や電子黒板を用いた鑑賞を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・木の接着や彫刻刀の彫りや刷りにおいて、試しながら納得のいく表現を8割以上の児童が見付けることができる。 ・作品の面白さや、作品から自分が想像したことを、話したり、簡単な文で書いたりすることを8割以上の児童ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・彫刻刀の使い方を十分練習し、試しの作品に取り組むこともできた。のこぎりやげんのう、くぎ抜き等の道具も十分試してから作業に入ることができた。 ・鑑賞だけに着目した授業に年間で5回取り組み、作品から感じたことを文にすることもできるようになった。鑑賞した作品から自分の制作のヒントをどう掴むかが今後の課題である。
<p>体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体力テストを活用し、授業の中に基礎的な運動をする時間を設け運動能力を高める。特に、ボールを投げる・取る、鉄棒運動を積極的に取り入れる。 ・技能の到達目標を明確に示して、児童が具体的なめあてをもたせる。また、ポイントを事前に指導することで、児童同士で教え合わせ、互いの運動技能を高めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・握力やボールを投げる力を高める運動を取り入れ、総合的な体力の向上を図る。 ・学習内容のポイントを明確に示し、それぞれの技能の到達目標を意識させることで児童同士が目標達成に向けた練習に取り組み、児童同士が自然と教え合えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネット型ゲーム等では、チームでの話し合いや個人の振り返りを行ったことで、力を合わせて運動することを楽しみ、自分たちで課題を見出すことができた。跳び箱・マット運動では、場を工夫し児童同士での教え合いを取り入れたことで、できる技を増やすことができた。 ・総合的な体力の向上を図るために、年間を通して高めたい力が向上する運動を取り入れながら、継続して取り組んでいく。

教科	授業改善のための具体的な取組	学校として位置付けている授業改善のための具体的な取組の目標値や評価規準等	今年度の評価や修正点
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・物語文や説明文では、文章の叙述や資料、体験、既習事項等から根拠を見出し、論理的に判断して、試しし表現させる活動を繰り返し行うようにする。 ・既習の漢字の読み書きを定着させる。新出漢字を使った短文作りをしたり、国語・漢字辞典を利用したりしながら、日ごろから漢字や言葉を意識して使えるようにする。 ・日常的に読書をするよう声をかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを表現する際は「考え・根拠・理由」の三点セットを用いて8割以上の児童が表現できるようにする。 ・会話、行動、情景から登場人物の気持ちを9割以上の児童が読み取ることができるようにする。 ・文の構造や表現から、作者の主張を8割以上の児童が理解できるようにする。 ・音読、漢字の書き取り、意味調べについては、授業だけではなく繰り返し家庭学習でも取り組ませる。 ・ノート指導や作文指導の中でも、既習の漢字を使うようにさせる。新出漢字のテストは、児童の8割が80点以上を取れるようにする。 ・国語の時間に限らず、読書に取り組むよう声をかける。読書貯金通帳を活用させ、年間1万ページを目標とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な場面で判断させる機会をもつことによって、自分の考えを表現できる児童が増えてきた。また、意見交流の場で自信をもって発言できる児童が増えてきた。 ・日頃から既習の漢字を使用するよう声をかけることによって、10問の書き取りテストはできるようになってきている。しかし、同音異義の漢字が増え、混乱する児童が見られた。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・各種資料を効果的に活用しながら思考、判断し、調べたことや考えたことを自分の言葉で表現できるようにする。 ・提示する資料や学習の流れを工夫することで、国土や食料生産、工業生産について興味をもたせ、それぞれの学習時間を通して関心と理解を深めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真や映像など児童の実態に合った資料を用意し、問題解決能力を高めるノート指導の工夫をすることで、8割の児童が自分の考えを書けるようにする。 ・交流や発表の仕方を工夫することで、児童が自分の考えを表現できるようにする。 ・既習内容から自分の考えを深められるように、体験的な活動を行ったり、発問を工夫したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な写真や統計資料だけでなく、問題提示やまとめの段階に映像資料を活用することで、自分の考えを書くことができる児童が増えてきた一方で、書く内容や量の差は大きい。 ・問題解決的な発問をしてきたことで、児童の学習に対する意欲が増し、既習内容から考えを深めようとする児童が増えてきた。 ・ペアやグループなど、交流方法を工夫してきたことで、自分の考えを進んで表現する児童が増えたが、まだ偏りがある。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてを毎時間、黒板に提示して児童が常に意識できるようにする。 ・習熟度に応じた学習を展開し、知識・技能の習得を確かなものにする。 ・問題解決的な学習過程（問題把握→自力解決→交流→まとめ→習熟）をふみ、自分の思考を図、言葉、式を用いてノートにまとめたり、考え方や解き方を説明したりする活動を取り入れていく。 ・自分の思考の過程や友達の考え方が分かるようなノートの取り方を指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や宿題で基礎基本を繰り返し習熟させ、ワークテストでは「知識」・「技能」で90%以上、「数学的な考え方」では70%以上を目指す。 ・ペアやグループなどでこまめに意見を交流させる場面を設定し、自分の考えを友達と交流できるようにする。 ・文章問題については、数直線等を使って8割以上の児童が立式できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本を繰り返し習熟させたことで、「知識」「技能」を高めることができた。 ・単位当たりの量や割合で、数直線を使うことで、8割ほどの児童が立式することができた。 ・「数学的な考え方」は70%以上到達できたので80%以上をめざすようにグループ活動等を多く取り入れる。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決型学習を取り入れ、「課題」または「問題」→「予想」→「方法」→「結果」→「考察」という学習の課程を定着させる。 ・手順に沿ってノートにまとめる。 ・観察・実験の技能を高めると共に、分かったことを正しく理解する。 ・比較・分類・関連付けに関する話型を教室内に掲示し、児童が自分の考えを表現する際に活用できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・9割以上の児童が、既習事項や体験を根拠として「予想」し、8割以上の児童が「結果」から自分で「考察」できることを目指す。 ・実験器具を正しく用いて、実験に合わせて器具を選択できるようにする。 ・ワークテストでは「知識」・「実験観察・技能」で95%以上、「思考力」では90%以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項や体験を根拠として予想をし、結果から自分で考察することができるようになってきた。 ・実験器具を正しく使用することはできるようになってきたが、器具を自分たちで選択することはまだ不十分である。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の児童が自分の思いや意図を楽曲に生かすために、曲の解釈（作曲家や歌詞の内容）について考えたり、自分の考えを述べ意見を友達と共有したりしながら、表現させる工夫をする。 ・音楽の体験的な学習活動を通してリズムや拍を感覚的に捉え、基礎的な知識や技能を高めるとともにそれらを使って創造する力やそれらを表現する力を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の歌声のよさに気付かせながら声を重ねて歌ったり、歌詞の内容を想像したりしながら自分の思いを明確にもって表現できるようにする。 ・リズムを中心とした音楽遊びを通してリズムの構造を知り、フレーズを意識しながらリズムを打つことができるとともに、単純拍子の構造を理解し、リズムの知識を活かしてリズム創作させる。 ・リコーダーでは、一斉指導や個別指導を通して、息の強さやタンギング、指遣いを、9割以上の児童が確実にできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・合唱ではハーモニーの美しさを体験させるため少人数グループの合唱を行いお互いの声を聴き合ったり、他のグループのハーモニーを聴くことで、美しさに気付く児童が増えた。 ・ボールやスティックを使った様々なリズム遊びを体験させ体にしみこませることで、合奏では音楽のテンポに乗りながら演奏することができるようになった。 ・読譜の力に差があるため、楽譜の読み方やリズムの読み方をもう一度確認する必要がある。

図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の表したいことに合わせて、表現方法を選択することができるようにする。 ・自分たちの作品や、親しみのある美術作品などのよさや美しさを、自分の思いをもって味えるようにする。制作中の相互鑑賞だけでなく、電子黒板やワークシートを用いた鑑賞授業も行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な描画材の特徴を試しながら発見し、80%以上の児童が発見したよさを表現に生かそうとする。 ・80%以上の児童が、自他の作品について語ったり、説明を文章で書いたりしながら、よさや美しさを感じ取れるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水彩絵の具で、板に絵をかいてパズルをつくったり、切り絵の背景を塗ったり、水墨画に挑戦したり、アクリル絵の具を利用したり、様々な描画材に取り組むことができた。 ・美術作品を見てワークシートに記入していく、鑑賞だけの授業を2回実施した。自分の感じたことを文章にし、交流する学習ができた。自分の制作にどう取り入れていくかが今後の課題となった。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・体力テストの結果を受けて運動能力を高めるため、授業の中に基礎的な運動をする時間を設ける。 ・技能の到達目標を明確に示して、児童が具体的なめあてをもてるようにする。また、ポイントを事前に指導することで、児童同士で教え合わせ、互いの運動能力を高める。 ・ワークシートを用いて、毎時間「めあて・振り返り」を必ず行わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・持久力、投力、跳躍力を高める運動を取り入れ、総合的な体力の向上を図る。6年生での体力テストにおいて、9割以上の児童が、前年度の結果より向上することを目指す。 ・学習内容のポイントを明確に示し、それぞれの技能の到達目標を意識させることで、児童自身が、目標達成に向けた練習方法の工夫を考え、児童同士が自然と教え合えるようにする。 ・前時の反省をふまえた上で、学習のめあてを立てられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーミングアップで持久力、投力、跳躍力を高める運動に年間を通して取り組んできたことで、児童の体力向上を図ることができた。 ・口頭の指導や学習カードの工夫によって、学習のポイントや到達目標を意識することができ、5年生なりに練習方法を考え、教え合いができる児童が増えてきた。 ・振り返りの形式をできるだけ揃えてきたことで、振り返り方が分かり、前時の反省をふまえた次時のめあてを立てられるようになってきた。
家庭科	<ul style="list-style-type: none"> ・衣食住の基礎的な技能を高めさせるようにする。 ・創意工夫を引き出すような指導を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な道具や機械を目的に応じて正しく扱えるようにする。また、地域や保護者の方の協力を得てミシンを使いこなす技能を高めさせる。 ・裁縫では、児童の意欲やアイデアを引き出すような題材を設定する。 ・安全性や専門性を高めるために、調理実習は栄養教諭と協力して準備し、指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方の協力を得て、意欲的に取り組み、裁縫・ミシンの技能が8割以上の児童に身に付いた。 ・調理単元では、栄養士やゲストティーチャーから専門的な知識も学び、栄養についての理解を深めることができた。

令和元年度 授業改善推進プラン 6年 (小学校)

調布市立富士見台小学校

教科	授業改善のための具体的な取組	学校として位置付けている授業改善のための具体的な取組の目標値や評価規準等	今年度の評価や修正点
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・物語文や説明文では、文章の叙述や資料、体験、既習事項等から根拠を見出し、論理的に判断して、試行し表現させる活動を繰り返し行うようにする。 ・既習の漢字の読み書きを定着させる。新出漢字を使った短文作りをしたり、国語・漢字辞典を利用したりしながら、日常的に漢字や言葉を使えるようにする。 ・日常的に読書をするよう声をかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを表現する際は「考え・根拠・理由」の三点セットを用いて表現させる。 ・会話、行動、情景から登場人物の気持ちを、9割の児童が想像できるようにする。 ・文の構造や表現から、作者の主張を9割の児童が理解できるようにする。 ・ノート指導や作文指導の中でも、既習の漢字を使うようにさせる。新出漢字のテストは、80点以上を8割の児童が取れるようにする。 ・国語の時間に限らず、読書に取り組むよう声をかける。読書貯金通帳を活用させ、年間1万ページ以上読書をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が発問を工夫して学習を行ったことで、児童が教材文の情報をしっかり読み取り、登場人物の気持ちを書いたり発表したりすることができた。発問に対する自分の考えをノートに書くことは9割の児童ができるようになったが、積極的に挙手して発表できる児童は少なかった。全体交流をする前に自分の考えを共有し、自信をもって活動できる小集団の話し合い活動などの学習環境を整えていく必要がある。 ・学習の中で既習の漢字を使用させたり、テストの間違え直しをさせたりすることによって、7割の児童が正しい漢字を使って文章を書く習慣が身についた。漢字10問テストでは80点以上とれるようになった。 ・年度初めに読書貯金の目標設定を決め、毎週読書貯金通帳の提出日を設け、一月毎に達成割合を確認したことで、6割の児童が目標を達成できた。しかし、ただ読むだけの活動になってしまいがちなので、読んだ本の中からおすすめの本を紹介するなどの活動を取り入れる必要がある。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・各種基礎的資料を効果的に活用しながら思考、判断し、調べたことや考えたことを自分の言葉で表現できるようにする。写真、ビデオ、資料集など児童に合った資料を用意する。それらの資料をもとに、歴史上の人物がなぜそのような行動をしたのか、考えさせる。 ・掲示する資料や学習の流れを工夫することで、我が国の歴史や、自分たちの生活の歴史的背景について興味をもち、理解と関心を深めるようにする。各時代毎に新聞作りを行い、考察を書かせ、学習のまとめをさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真や映像など児童の実態に合った資料を用意し、問題解決能力を高めるノート指導の工夫をすることで、学年9割の児童が歴史上の人物の言動に対して、時代背景を元に自分の考えを書けるようにする。 ・交流や発表の仕方を工夫することを通して、1コマの授業の中で、学年8割以上の児童が自分の考えを表現できるようにする。 ・新聞作りでは、児童全員が各時代の考察を、自分なりの言葉で書くことができるようにする。 ・既習内容から自分の考えを深められるように、発問を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書にある様々な写真や統計資料だけでなく、問題提示やまとめの段階に映像資料を活用することで、自分の考えを書くことができる児童が増えた。 ・問題解決的な発問をしてきたことで、児童の学習に対する意欲が増し、既習内容から考えを深めようとする児童が増えた。 ・ペアやグループなど、交流方法を工夫してきたことで、自分の考えを進んで表現する児童が増えた。 ・新聞づくりでは、相手意識をもって内容の精選、小見出しなどの工夫ができる児童が増えた。 ・学習後のワークテストは理解度は高いが、学年末のまとめテストになると点数が下がってしまう傾向にあった。既習内容を知識として定着し、持続して学習していける学習環境を整える必要がある。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてを毎時間、黒板に提示して児童が常に意識できるようにする。 ・習熟度に応じた学習を展開し、知識・技能の習得を確かなものにさせる。 →問題解決的な学習過程（問題把握→自力解決→全体交流→まとめ→習熟）をふみ、自分の思考をテープ図、線分図などの図や絵、言葉を用いてノートにまとめたり、考え方や解き方を説明したりする活動を取り入れる。 →しっかりコース、ぐんぐんコースでは、それぞれの考え方や解き方を全体に説明する活動を多く取り入れ交流させる。じっくりコースでは、既習事項の確認や反復を丁寧に言い、基本的な知識・技能を確実に身に付けられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や宿題で基礎基本を繰り返し習熟させ、ワークテストでは「知識」・「技能」で90%以上、「数学的な考え方」では70%以上を目指す。 ・しっかりコース、ぐんぐんコースでは、自分や友達の考え方を分かりやすく説明したり、かいたりできるようにする。じっくりコースでは、知識・技能を確実に身に付けさせ既習事項を使って自力解決できるようにする。 ・全体交流だけでなく、ペアや小グループで意見交流する場面を設定し、全児童が自分の考えを友達と交流する機会をもてるようにする。 ・全ての児童が、文章問題において、数直線やテープ図を使って立式することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「知識・技能」で90%以上を達成できた児童は半数ほど、「数学的な考え方」で80%は4割程度であった。 ・習熟度別のグループ編成に応じた指導の工夫を行ったことで、一人ひとりの理解が深まった。 ・小集団で意見交流をさせることによって、自分の考えを発表する機会をたくさんもたせることができた。また、教え合いも上手くできるようになった。 ・文章問題において、算数が苦手な児童も数直線やテープ図を使うことで立式できる児童が増えた。しかし、時間が経つと忘れてしまい、定着できていない児童もいた。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決型学習を取り入れ、「課題」または「問題」→「予想」→「方法」→「結果」→「考察」という学習の課程を定着させる。 ・手順に沿ってノートにまとめさせる。 ・観察・実験の技能を高めると共に、分かったことを正しく理解させる。 ・比較・分類・関連付けに関する話型を教室内に掲示し、児童が自分の考えを表現する際に活用できるようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・9割以上の児童が、既習事項や体験を根拠として「予想」し、8割以上の児童が「結果」から自分で「考察」できることを目指す。 ・実験器具を正しく用いて、実験に合わせて器具を選択できるようにする。 ・ワークテストでは「知識」・「実験観察・技能」で95%以上、「思考力」では90%以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「知識」「実験観察・技能」で95%を達成できた児童は、8割程度、「思考力」では7割ほどだった。 ・既習事項や体験を根拠として予想をし、結果から自分で考察することはできるようになってきているが、分かったことから発展的に考えることは難しく、今後の課題である。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・曲の解釈（和音やフレーズ・歌詞の内容）について考え、技能や知識を蓄えるとともに表現させる。 →ペア活動やグループ活動の中で基礎的な音楽能力を養う ・音楽の体験的な学習活動を通して、リズムや曲を感覚的に捉え、基礎的な知識や技能を高めるとともに、それらを使って想像する力や表現する力を身に付けさせる。 →音楽によって即時判断、思考力、表現力をつけるためリトミックを使って学ばせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の歌声のよさに気付かせ歌う喜びを味わわせながら、声を重ねて歌ったり歌詞の内容を想像したりしながら、児童が自分の思いや意図を明確にもって表現できるようにする。また、音楽リーダーを中心に楽曲について児童間の交流を深めさせる。 ・リズムを中心とした音楽遊びを通して簡単なリズムから複雑なリズムの構造を知り、リズムを打つことができるようにする。 ・リコーダーでは、一斉指導や個別指導を通して、息の強さやタンギング、指遣いを、9割以上の児童が確実にできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の声や友達の声の良さに気づいたり、歌詞の内容を理解したりしながら表現の工夫ができるようになってきた。また、児童によっては、変声期に入っている子もいるので無理ない音域で歌わせながら合唱づくりをすることができた。 ・複雑なリズムも理解しながら、楽譜を自分で読む力が身に付き、演奏することができるようになってきた。

<p>図画工作</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いをもち、表したいことをのびのびと表すことができる題材に取り組ませる。→手順を確認したり、道具の使い方の確認、発想が広がる掲示物等を整えておくことで、視覚情報による支援を行う。 ・自分たちの作品のよさや美しさに気付くとともに、身近な美術作品や工芸品などを自分らしい見方や感じ方で味わえるようになる。→制作中の鑑賞、電子黒板や拡大印刷した資料を用いた鑑賞など、多様な鑑賞方法を題材によって取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・未来や自己の内面を表現する題材を設定し、作品展において2点以上展示する。 ・鑑賞する作品や形態に合わせて「鑑賞ワークシート」を活用し、自分の作った作品についての思いや、他の人が作った作品のよさを、文章やスケッチなどで表現させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品展において、2点の展示を行った。各作品とも、技能の習熟や、発想の広がりが見られた。特に、技能を求められる場面では、スモールステップによる一斉指導を取り入れたことで、一人一人が満足のいく完成度まで高められるように配慮することができた。 ・相互鑑賞だけでなく、カードなどを利用したグループ鑑賞も行き、美術作品への親しみを深めることができた。
<p>体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体力テストの結果を受けて運動能力を高めるため、授業の中に基礎的な運動をする時間を設ける。 ・技能の到達目標を明確に示して、児童が具体的なめあてをもてるようにする。また、ポイントを事前に指導することで、児童同士で教え合わせ、互いの運動技能を高める。 ・ワークシートを用いて、毎時間「めあて・振り返り」を必ず行わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・持久力、投力、跳躍力を高める運動を取り入れ、総合的な体力の向上を図る。体力テストにおいて、9割以上の児童が、前年度の結果より向上することを目指す。 ・学習内容のポイントを明確に示し、それぞれの技能の到達目標を意識させることで、児童自身が、目標達成に向けた練習方法の工夫を考え、児童同士が自然と教え合えるようにする。 ・前時の反省をふまえた上で、学習のめあてを立てられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・口頭の指導や学習カードの工夫によって、学習のポイントや到達目標を意識することができ、6年生なりに練習方法を考え、教え合いができた児童が増えてきた。 ・振り返りの形式をできるだけ揃えてきたことで、振り返り方が分かり、前時の反省をふまえた次時のめあてを立てられるようになった。
<p>家庭科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・衣食住の基礎的な技能を高めさせるようにする。 ・創意工夫を引き出すような指導を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な道具や機械を目的に応じて正しく扱えるようにする。また、地域や保護者の方の協力を得てミシンを使いこなす技能を高めさせる。 ・安全性や専門性を高めるために、調理実習は栄養士と協力して準備し、指導する。 ・裁縫では、児童の意欲やアイデアを引き出すような題材を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方の協力を得て意欲的に取り組み、裁縫・ミシンの技能が9割の児童に身に付いた。 ・各自が用意した古着や古布を再利用して作った「マイエコバッグ」作りを通して、自分で工夫して発展的に飾付をすることができた児童が9割いた。学年末に、学習したことを自ら活用する授業を実践することができた。 ・調理単元では、栄養士と協力して、バランスのよい食事メニューを考えたり、実習したりすることができた。また、最後の調理単元では、作ってみたい、食べてみたいジャガイモ料理を調べ、一人ひとりがプレゼンテーションをし、作る料理を決めて実習に取り組んだ。材料や調理方法などを一人一人が調べてきたことで、友達と協力して主体的に取り組むことができた。